

表 4066 2014年中の腹膜炎発症率(回/1患者・年) 治療方法(新分類)別(腹膜透析患者)

治療方法 (新分類)	0	1.0～	2.0～	3.0～	4.0～	5.0～	合計	不明 記載なし	総計	平均	標準偏差
腹膜透析 (CAPD) (%)	2,502 (87.0)	277 (9.6)	58 (2.0)	22 (0.8)	7 (0.2)	10 (0.3)	2,876 (100.0)	2,145	5,021	0.20	0.73
腹膜透析 (APD) (%)	1,521 (89.0)	142 (8.3)	21 (1.2)	7 (0.4)	5 (0.3)	13 (0.8)	1,709 (100.0)	1,130	2,839	0.20	0.85
腹膜透析 (CCPD) (%)	628 (87.7)	66 (9.2)	16 (2.2)	1 (0.1)	3 (0.4)	2 (0.3)	716 (100.0)	365	1,081	0.18	0.59
合計 (%)	4,651 (87.7)	485 (9.1)	95 (1.8)	30 (0.6)	15 (0.3)	25 (0.5)	5,301 (100.0)	3,640	8,941	0.20	0.75
記載なし (%)											
総計 (%)	4,651 (87.7)	485 (9.1)	95 (1.8)	30 (0.6)	15 (0.3)	25 (0.5)	5,301 (100.0)	3,640	8,941	0.20	0.75

数値下の括弧内は行方向の合計に対する%です。

*個々の患者の腹膜炎発症率(回/1患者・年)は、1.0未満の数値が0となるため、「0」と表示しています。

*腹膜透析(CCPD)は、APDと手動のバック交換の両方を行うもの

(C)Japanese Society for Dialysis Therapy